

部課名		防災安全部防災課											
課の使命		市民の生命、身体及び財産を災害から保護するため、市民の防災意識向上や町田市としての市の危機管理体制の強化に努めることです。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定													
順位	計画 類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進 捗 状 況	中間確認		年度末確認				
							上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評 価	評価の 視点	課題と対応
1	重点 事業 プラン	まちだ防災カ レッジの推進	<p>・「まちだ防災カレッジ」をより多くの市民に広く知ってもらい、市民一人ひとりの防災意識の高揚を図るため、Instagram等のデジタルツールを活用し、周知に努めます。</p> <p>・2022年度に開設したポータルサイトでは、「まなぶ」のコンテンツを充実させ、セミナーや講演会を通して防災に関する基礎知識を発信します。</p> <p>・「とりくむ」では、「マンション防災」をテーマに、在宅避難や地域における自助共助体制の構築など、集合住宅の多い地区を中心に周知します。</p> <p>※市民の防災意識向上を目的とした「まちだ防災カレッジ」は、防災教育事業である「まなぶ」と地域の課題解決を目指す「とりくむ」の2つをテーマに事業を実施します。</p>	<p>① Instagramによる情報発信回数</p> <p>② 「とりくむ」実施地区数</p>	<p>① 40回</p> <p>② 2地区(累計6地区)</p>	○	<p>① Instagramでは、まちだ防災カレッジのアカウントによって町田市防災アンバサダーが実施するイベントや市民に向けて災害の備えの情報発信を20回行いました。</p> <p>「まなぶ」では、避難施設関係者事前研修や防災に関連する事前都市復興シンポジウム等の周知を行い、避難所生活や事前都市復興について情報発信を行いました。</p> <p>② 「とりくむ」では、今年度のテーマである「マンション防災」に取り組むため、マンションが多い地区の自主防災組織と調整を行いました。</p>	<p>ポータルサイトでは、「まなぶ」のコンテンツを充実させ、防災の基礎知識について座学と実技の講習会を実施し、対象や目的別の講習会を設定することで、受講者が自らが望む知識を取得できるような情報を発信します。</p> <p>② 「とりくむ」では、市内のマンションを対象に防災訓練を行うことで発災後の在宅での避難生活で問題となる物資供給や情報伝達等の課題に対し、モデルケースの検証を進めます。</p>	<p>① 未来の防災の担い手となる若年層に対しても、町田市防災アンバサダーがイベント参加などによる広報活動により、情報発信を行いました。また、Instagramによる情報発信回数は年間44回で、一年前倒して目標を達成しました。これらのことにより、防災情報を防災アンバサダーが市民の目線を変えて発信し、市民一人ひとりの防災意識の高揚を図りました。</p> <p>「まなぶ」では、受講者が自らが望む知識を取得できるようにすることに重点を置き、防災に関する基礎知識の発信として「ベント防災セミナー」や「水道サポーター交流会」をはじめとした座学と実技の講習会を実施しました。またイベント後に日頃からできる対策のポイントをInstagramなどで発信し、イベントに参加していない人も含め、市民一人ひとりに向けての情報発信を行いました。</p> <p>② 「とりくむ」では、「町田第一地区」(2月23日実施)及び「南地区」(3月1日実施)の2地区で、マンション防災をテーマとした在宅避難に関するセミナー及びイベントを実施しました。その結果、参加者には発災時において在宅避難が選択肢のひとつとなることを周知することができました。さらに、在宅避難を推進する具体的な取り組みの一つとして、当初の予定がなかったマンション防災リーフレットを作成し、ホームページ等で周知しました。加えて、過去に「とりくむ」を行った地区で市民が自発的に防災訓練を実施し、地域における自助共助の強化を図りました。</p>	<p>① 44回</p> <p>② 2地区</p>	B	<p>B: Instagramによる情報発信回数は一年度前倒して目標を達成できたためです。</p> <p>「とりくむ」では2地区の実施に加え、マンション防災リーフレットを作成し、ホームページ等での周知を図ったためです。</p>	<p>・SNS等のさらなる活用及び町田市防災アンバサダーによる防災情報の魅力的な発信等により、引き続き市民一人ひとりに在宅避難に関する周知をすすめていきます。</p> <p>・より多くの市民、特に未来の担い手となる若年層に対して、防災に興味・関心を持ってもらい、市民一人ひとりが防災リーダーとなるようにするため、楽しく体験・学習できる防災イベントや防災講座等を実施していきます。</p>

年度目標設定						中間確認		年度末確認					
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
2	個別計画	町田市事業継続計画の修正	<p>・町田市地域防災計画(2023年度修正)の修正内容を反映するとともに、新たな東京の被害想定を踏まえた参集試算等を検討し、被害の実態に即した執行体制を構築します。</p> <p>・業務継続の実効性向上を図るため、修正に当たっては、総合防災訓練や各対策部訓練の実施・検証結果、各対策部マニュアルの修正について反映します。</p> <p>・防災DXの一環として防災システムの更改による情報共有・情報発信の強化を図ってきました。こうしたDX化の取り組みを反映します。</p>	町田市事業継続計画の修正	完了	○	<p>・町田市地域防災計画(2023年度修正)の修正内容や新たな東京都の被害想定を踏まえて、各対策部において実現性を高める業務執行体制の検討を行いました。</p> <p>・7月に2024年度第1回町田市防災対策推進本部会議兼2024年度第1回町田市防災計画検討委員会を開催し、町田市事業継続計画の修正方針及びスケジュールについて、検討を行いました。</p> <p>・DX化の取り組みとして、防災システムによる人員体制管理、情報共有・情報発信について、図上訓練で検証を行いました。</p>	<p>・町田市事業継続計画に係る各対策部における庁内照会の結果を受け、より実態に即した計画とするため、全対策部にヒアリングを実施いたします。</p> <p>・11月19日に2024年度第2回町田市防災計画検討委員会を開催し、町田市事業継続計画(地震編)の修正案に対する庁内の意見集約を行います。</p> <p>・2月に2024年度第2回町田市防災対策推進本部会議へ、町田市事業継続計画(地震編)の修正案を付議し、町田市事業継続計画(地震編)の修正を完了します。</p>	<p>・町田市地域防災計画(2023年度修正)の修正内容や東京都業務継続計画(令和5年11月修正)の内容を反映しました。</p> <p>・全対策部へのヒアリングを実施し庁内の意見集約を行い、「いつ、どの時点で、どのくらいの人手で」業務を実施するか見える化を行いました。その結果、発災後にも各対策部における人員調整のマネジメントに資するより実効性のある修正案を作成しました。</p> <p>・災害対応時において、防災システムを使用した災害情報の共有やTeamsによる災害対策本部の中継を行うことにより、会議室に入室できない職員でも即時的に内容が把握できる環境を整備しました。</p> <p>・第2回町田市防災対策推進本部会議において承認を得て、修正を完了しました。</p>	完了	B	<p>B:全対策部ヒアリングなどを行い、より実態に即した修正案の作成ができました。</p> <p>・震災対応図上訓練を実施することで、今年度修正した町田市事業継続計画(地震編)や各対策部マニュアルの検証を行うとともに、地震災害に関する課題の抽出を行います。その結果を地域防災計画の修正につなげていきます。</p>	
3	個別計画	児童・生徒に対する防災教育の推進	<p>・消防法に基づく避難訓練以外の防災教育を行っていない小学校・中学校・高等学校に、起震車体験や学校の授業内での防災教育を組み込むなど、他の学校が取り組んでいる防災教育の取り組みの例を提示します。そうすることで学校に通う児童・生徒が身の周りの防災について能動的に考えることができる機会を創出します。</p> <p>・2025年度に向けて各学校の防災教育の取り組み状況の把握については、学校へのアンケート調査を行います。その結果を取りまとめたうえで学校が取り組む防災教育の例として各学校に送付し、防災教育の周知に努めます。</p>	防災教育を実施する市内の小学校・中学校・高等学校の校数	7校 (累計48校)	○	<p>・5月に開催した校長会にて、児童生徒に対する防災教育の実施を呼びかけました。</p> <p>・教育機関が防災教育を円滑に行えるよう、起震車の予約を優先的に受け付けました。</p>	<p>・避難施設開設訓練や学校公開日の日程にあわせて防災教育を行う予定です。</p> <p>・2023年度に実施したアンケートをもとに防災教育を希望した学校に起震車体験を含めた防災教育実施の日程の確認を行います。</p> <p>・2024年度に実施する各学校の防災教育の取り組み予定については、各学校へのアンケート調査を行い把握します。引き続き、地域防災の担い手育成のため、防災教育を推進します。</p>	<p>・2024年度は、市内の小学校・中学校・高等学校の計10校で新たに防災教育をし、2023年度からの累計で計51校で実施しました。消防団や自主防災組織等の地域防災力の担い手を交えた訓練や学校公開日と合わせた訓練を実施することにより、地域防災力の拡充を図りました。</p> <p>・12月に市内の小学校・中学校・高等学校に防災教育に関するアンケート調査を行いました。市内の小学校・中学校・高等学校の取組事例をまとめ、アンケートとともに配布することで、更なる防災教育の推進を図りました。</p>	計10校 (累計51校)	B	<p>・校長会や避難施設関係者事前研修の機会を活用し、児童・生徒への防災教育の実施を呼びかけるとともに消防団・自主防災組織を交えた内容の充実を図っていきます。</p> <p>B:当初の目標を上回る10校で防災教育を実施したためです。</p> <p>・2024年度に実施したアンケート調査をもとに、防災への取り組みがない学校に対しても市内の小学校・中学校・高等学校の取組事例を示し、防災教育の実施に向けて調整を進めていきます。</p>	

順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認					
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
4	個別 計画	消防団員確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>若手団員の確保に向け、消防団の魅力を向上させるとともに、SNS等を活用した情報発信を強化していきます。</li> <li>東京都住宅供給公社との協定に基づく入団促進策が、若年層の入団につながるよう、積極的なPRを行っています。</li> <li>消防団員の更なる負担軽減や事務の効率化を図るため、より一層デジタル化を推進します。</li> </ul>	SNSや広報、イベント参加による情報発信回数	30回	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>団員の確保に向け、消防団の魅力を伝えるべく、市内各地のイベントへ現役団員の方に参加してもらい、団員募集を行ったり、訓練の様子等をInstagramで発信するなど、10回情報発信しました。</li> <li>東京都住宅供給公社と締結している協定については、イベント等で協定のリーフレットと消防団員募集リーフレットを合わせて配布し、積極的にPRを行いました。</li> <li>消防団員の負担軽減を図るために、出勤報告の電子化について5月にシステム事業者からデモを受け、現状の使い勝手や料金等を確認しました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き現役団員の方々にご協力いただきながら、消防団の魅力や活動のメリットなどを、防災フェスタや出初式などの場でアピールし、募集活動に取り組んでいきます。また、その様子をSNS等を活用して情報発信をしていきます。</li> <li>協定を利用して入団者増加につなげられるよう、継続してPRしていきます。</li> <li>出勤報告等を電子化している先行自治体に視察に行き、導入に至った手順や、実際の事務局の声や団員の方からの声などの情報を収集します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上半期に引き続き、防災フェスタや消防団出初式、二十祭まちだなど、市内各地のイベントで団員募集を行ないました。さらに、市の催しだけでなく、駅での募集活動や器具置場の見学会などを消防団員が主体となって新たな取り組みを始めました。また、若手団員が中心となり検討を行い、消防団の魅力や活動内容をSNS(Instagram)を通じて情報発信しました。その取り組みの成果として、多くても30名程度であった新規入団者数が、55名に増加しました。</li> <li>都住宅供給公社との協定に基づく入団促進策については、イベント等で団員募集を行なう際に協定のリーフレットを同封し、1,000枚以上配布しました。</li> <li>すでに消防団活動支援システムを導入している他市へ視察に行きました。消防団員から事務局への報告や、事務局での集計作業の簡素化が図れ、負担の軽減につながる事が確認できました。</li> </ul>	30回	C	C:目標水準を達成したためです。	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信回数の目標を達成しました。</li> <li>引き続き若手団員確保に向け、消防団の魅力を向上させ、SNS等を活用した情報発信をしていきます。また、退団抑止についても引き続き検討を進めます。</li> <li>消防団員及び担当職員の更なる負担軽減や事務の効率化を図るため、更にデジタル化を検討していきます。</li> </ul>
5	事務 事業 見直し	予算や契約の一元管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>①防災安全部(防災課・市民生活安全課)共通の消耗品を一元的に管理するため、消耗品を棚卸し、リスト化します。</li> <li>②これまで電力会社と個別契約を行っていた各消防団器具置場の電気料金を一括契約し、入札により、より適正な価格で契約を締結するため、他部署の事例を収集し、検討します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①一元管理する消耗品の棚卸・リスト化</li> <li>②他部署事例の収集・検討</li> </ul>	①完了 ②検討	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>①8月までに総務担当職員による課内消耗品の棚卸しが完了しました。</li> <li>②近3か年の他自治体の入札情報を調査しました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①部内共通の消耗品を一元管理できるよう、リスト化します。</li> <li>②入札にあたって必要な事項等を他部署に確認し、費用対効果を調査します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①棚卸した防災安全部(防災課・市民生活安全課)共通の消耗品のリスト化を10月に前倒して完了しました。2025年度予算の消耗品費を防災課に一元化し、部の消耗品管理の事務が効率化されました。</li> <li>②調査した結果、規模が小さいために入札に不向きであることがわかったため、検討を終了しました。</li> </ul>	①完了 ②検討終了	C	C:目標水準を達成したためです。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①部共通の消耗品の一元管理を行います。</li> <li>②検討を終了しました。</li> </ul>

順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認					
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
6	-	「ゼロカーボンシティまちだ」に向けた取組	・各種打合せ等は、データを事前に送付する等により紙資料の印刷は行わないようにし、印刷が必要な場合でも必要最小限となるように取組みます。	紙資料の印刷枚数	609,545枚 (2023年度実績枚数)未滿	△	各種打ち合わせにおいて、モニターやデジタルツールを活用し、紙資料の印刷を最小限に抑えました。しかし、消防団の会議や避難施設関係者連絡会等の資料等、印刷が必須となる状況が多く存在したため、昨年度の同時期と比較し、印刷枚数を減らすことができていません。	引き続き、真に印刷が必要なものを精査し、印刷枚数の削減に取り組みます。	・防災意識の高まりにより、避難施設関係者連絡会に参加される方が増えたことや、消防団の会議での紙資料の印刷を抑えることが難しくなったため、印刷枚数が増加しました。その一方で、紙資料の削減に向けた意識向上を図るため、定期的に朝礼やチャットを通じて課内アナウンスを行いました。これにより、課内および庁内の打ち合わせでは、ノートPCや大型モニターを使用するなど、会議資料のペーパーレス化をさらに徹底し、紙資料の印刷を最小限に抑えることができたため、目標を達成することができました。	600,000枚	C	C:目標水準を達成したためです。	・引き続き、庁内打ち合わせでのペーパーレス化を徹底します。

部課名		防災安全都市民生活安全課											
課の使命		町田市に関わる全ての人・団体・企業等とともに、防犯・交通安全の意識を高め、活動に携わり、周囲に大切さを伝える好循環を協力してつくりあげることで、将来にわたって安全・安心な暮らしを実感できるつながりの輪を広げていきます。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定													
順位	計画 類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	中間確認		年度末確認				
							上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括		目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点
1	重点 事業 プラン	協働パトロールの実施	・警察や地域団体などと定期的を実施している協働パトロールに加え、親子や外国の方、学生など幅広い方々を迎え入れて実施する協働パトロールについても拡充していきます。	①協働パトロール回数 ②協働パトロール参加人数	①48回 ②700人	○	警察、地域団体、学生らと協働パトロール(防犯)を29回実施し、354人の方に参加いただきました。	引き続き協働パトロール(防犯)を実施します。親子、外国の方と実施できる機会も設けていきます。	・関係団体に働きかけを行い、親子連れや学生のほか外国の方も協働パトロールを行うことで、防犯活動の新たな担い手創出を図りました。 ・定期的な協働パトロールのほか、町内会との合同パトロールを実施しました。その結果、目標値48回を上回る67回の実施で、延べ903人の方とともにパトロールを行い、市民や来街者の防犯意識向上を図りました。 ・警察と連携し、金融機関や中心市街地での特殊詐欺に関する啓発活動や、防災行政無線による啓発放送等を行い、注意喚起を図りました。	①67回 ②903人	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	都内や近隣県における闇バイト強盗の被害が報道されることで、犯罪に遭うのではないかという不安感が高まっています。引き続き、警察等と連携して、協働パトロールや青パト車による巡回を行うとともに、具体的な防犯対策を伝える講話を通じて、「安心して暮らせる地域社会の形成」の実現を目指します。
2	重点 事業 プラン	交通安全ミーティングの実施	・市民が交通安全に関する疑問等を気軽に聞くことができるミーティングを実施し、そこで得た情報を基に市が行う啓発活動に活用していきます。	①交通安全ミーティング実施回数 ②ミーティングで得た情報を活用した啓発活動の実施回数	①6回 ②6回	△	①交通安全ミーティングの実施はふれあいくぬぎ館における高齢者を対象とした1回にとどまりました。 ②2023年度までに実施した交通安全ミーティングでは、自転車安全利用五則や自転車保険への加入義務などの基本的なルールが浸透していないことが把握できたため、それらを記載したチラシを作成し、市庁舎イベントスタジオにおける啓発活動で配布しました。	①市の施設だけではなく、民間施設にも出向き、高齢者や地域団体などの交通安全ミーティングを実施し、交通安全に関する意見を収集します。 ②引き続き交通安全ミーティングで得た情報を活用した啓発活動を実施します。	・高齢者や地域団体などの多様な主体と交通安全ミーティングを6回実施しました。また、新たに中学校自転車教室において、生徒の交通安全意識を調査し、認知度の低いヘルメットを着用しない理由を把握することができました。 ・交通安全ミーティングで得た情報を活用して、自転車安全利用五則などの基本的なルールを記載したチラシを作成し、市庁舎イベントスタジオや南町田地下道などで啓発活動を6回行いました。 ・交通安全ミーティングに参加した団体が持つ媒体で情報発信をもらうことで、普段の啓発活動では行き届きにくい方々に啓発をすることができました。	①6回 ②6回	C	C:目標水準を達成したためです。	交通ルールを順守することの大切さ、交通ルールを守ることによって交通事故がどれだけ減らせるのかなど、交通事故を自分事として捉えてもらえるような啓発活動を行っています。

順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認					
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
3	事務 事業 見直し	啓発チラシの 見直し	・啓発活動で配布するチラシについて、紙使用量を削減するとともに、市民に情報をより効果的に伝えるため、業務ミーティングによりサイズや記載内容を見直します。	①見直すチラシの選定 ②チラシのサイズや記載内容を見直した件数	①完了 ②2件	○	<p>①業務ミーティングを実施し、見直すチラシを2件選定するとともに、見直し内容を検討しました。</p> <p>②自転車の交通ルールを記載したチラシは、特に市民に知ってほしい交通ルールと、交通安全動画や自転車保険の加入義務に関するホームページのQRコードのみを記載することで、A4サイズから名刺サイズに縮小しました。</p> <p>ワークショップで使用するチラシは、やり方を説明する箇所をラミネートして繰り返し使用できるようにすることで、紙の使用枚数削減を図りました。</p>	<p>①②作成したチラシを配布・活用します。</p> <p>活用した結果を業務ミーティングで振り返ります。</p>	<p>・業務ミーティングを実施し、自転車の交通ルールに関するチラシ及び、ワークショップで使用する交通安全・防犯クイズのチラシを見直すチラシに選定しました。</p> <p>・自転車の交通ルールを記載したチラシは、特に市民に知ってほしい交通ルールである自転車安全五則と、交通安全動画や自転車保険の加入義務に関するホームページのQRコードのみを記載することで、A4サイズから名刺サイズに縮小しました。</p> <p>・ワークショップで使用する交通安全・防犯クイズのチラシは、やり方を説明する箇所をラミネートして繰り返し使用できるようにすることで、印刷枚数を従来の半分にしました。</p> <p>・見直した2件のチラシを使用し、南町地下道、山崎団地におけるイベント等で啓発活動を行いました。また、活用した結果を振り返る業務ミーティングを行い、効率的・効果的な啓発を行うことができていることを確認しました。</p> <p>・事務の見直しで、高速プリンターでの紙資料の印刷枚数(A4換算)は、2023年度比43%減の7,500枚に抑えることができました。</p>	①完了 ②2件	C	C:目標水準を達成したためです。	振り返りで出た改善点を踏まえてさらに修正を行い、他のチラシにおいても見直しを進めています。
4	事務 事業 見直し	防災安全部共通の消耗品の一元管理	・消耗品管理の効率化や予算削減を目的として、防災課に消耗品の管理を一元化します。	一元管理する消耗品の棚卸・リスト化	完了	○	<p>・一元管理する消耗品の選定が完了しました。</p> <p>・部での管理方法を検討しました。</p> <p>・課の消耗品の棚卸が完了しました。</p>	<p>・消耗品の保管場所を整理して、防災課へ移管します。</p>	<p>棚卸した防災安全部(防災課・市民生活安全課)共通の消耗品のリスト化を予定より前倒して10月に完了しました。2025年度予算の消耗品費を防災課に一元化し、2025年度からの市民生活安全課の消耗品予算及び、消耗品購入に係る事務負担を削減する準備を整えました。</p>	完了	C	C:目標水準を達成したためです。	部総務担当による、部共通の消耗品の一元管理を行います。